

キーワード: **子ども** **貧困・格差** **学習支援**

活動地域: 広島県

テーマ: 貧困・格差対策等社会的支援(福祉的支援)を行う事業

団体名: 特定非営利活動法人みよし子育て・学力支援あすなろ

事業名: 子育て学力支援事業

助成金額: 1,669 千円

事業年度: 平成 25 年度

団体概要

住所: 〒728-0006
広島県三次市畠敷町36番7

連絡先: 0824-55-6301

HP: <http://www.asunaro-juku.info/>

事業背景

広島県北部地域で経済的な事情で学習塾に行けない子どもたちを対象に学習塾を行っています。

近年は家庭の所得格差がそのまま子どもの学力格差となっています。低学力のままで進級し高校受験をするため、定員割れの高校にも進学できない生徒が増えています。その背景には、学習習慣学習や学習意欲が身につけていないため、自学力が育っていないという大きな課題があります。

事業概要

助成事業では、生活保護家庭・ひとり親家庭等、経済的に恵まれない小中学生の所得格差と学力格差、貧困による負の連鎖を断ち切ることを目的に、自学力を育てるための学習支援を行いました。

学習支援では、奨学金の受給資格を超える学力を身につけることを目的にした教室と、学習面で、どこでつまづいているかを明らかにし、個別にフォローを行う教室を設けています。

保護者の子育て観、家庭における教育力を高める必要があります。保護者を対象にした子育て講座、地域の高齢者と共に学ぶ漢字検定講座や料理教室も開いています。

当団体は、知徳一体の指導方針のもとに「感謝」「奉仕」の心を育てることを願って、河川美化活動を地域の自治団体・漁業協同組合・観光協会などと一緒に定期的に行っています。助成事業を通じて、学習面のフォローだけではなく、生活面において福祉的な支援が必要な子どもを対象にした「居場所づくり」も展開できるようになりました。今後は、「どんな家庭に生まれても」「どんな地域で育っても」学ぶことのできる環境づくり、ひいては過疎地の後継者づくりにも継続的に取り組まれます。

ここに注目！

現在は、従来の取り組みに加えて過疎地の寺院や自治連合組織とのネットワーク化を進めています。過疎地—特に限界集落における現代の寺子屋を甦らせ、子どもたちの「学びの場」を拡げる取り組みを展開しています。



学習支援の様子

馬洗川クリーン作戦



あすなろ
進路指導講座



卒業生による進路指導

キーワード: **障害児・病児** **遊育支援** 人材育成 活動地域: 静岡県

テーマ: 地域や家庭における子ども・子育てに関する事業

団体名: **特定非営利活動法人 ホスピタル・プレイ協会**

すべての子どもの遊びと支援を考える会

事業名: 病児・障害児への遊育事業

助成金額: 3,000 千円 事業年度: 平成 25 年度

団体概要

住所: 〒420-0885
静岡県静岡市葵区大岩 9-2

連絡先: 054-202-2652
info@hps-japan.net

HP: <http://hps-japan.net/>

事業背景

病児や障害児など医療との関わりが深く複合的なニーズを持つハイリスクな児童は、医療的ケアにばかり専門家の目が行ってしまいがちです。病児や障害児である前に、一人の子どもとしての命を輝かせる「遊び」を通して、社会とのつながりを形成していくことが望まれています。

事業概要

助成事業では、病気や障害のある子どもやその家族を対象に、子どもの遊ぶ力を引き出すことで他者との協調性や自己表現の機会をつくるホスピタル・プレイの活動を踏まえた「遊育支援」や、看護師・保育士等の支援者を対象とした「ホスピタル・プレイスペシャリスト講座」の実施、ホスピタル・プレイの実践を紹介した「事例集」の作成等にも取り組まれました。

助成金で作成した事例集を教材として活用し、講座は参加費収入、遊育支援は助成金の活用等により事業を継続させてきました。

遊びを通して子ども自らが自信を得て、生きる意欲を持つようになる等の「遊育支援」の効果は、児童福祉施設の子どもに対しても有効であることが分かり、現在は県の委託により「遊育支援事業」に取り組んでいます。

その他には児童相談所と連携し、一時保護の子どもに向けたプレイセラピーや、里親里子の関係回復を目指した遊びの場の提供にも取り組む

などニーズに応じた事業の拡がりが見られています。

ここに注目！

病気の子どもたちの療養環境の改善のため、ホスピタル・プレイの社会的認知の向上や人材育成に貢献されました。またホスピタル・プレイに関する取り組みを包括的に継続することによって、病院の外にいる医療的ケアを必要とする子どもたちのニーズにも光を当てることにつながりました。

難病の子どもたちとその家族の会、あるいは福祉施設や特別支援学校、また行政とも協働、連携することにより専門性の高い、遊育支援の在り方を模索するとともに、その拡がりへ資する取り組みとして期待されています。



遊育支援の様子

キーワード: **高齢者** **孤立防止**

活動地域: 千葉県

テーマ: 高齢者や障害児・者などが地域で普通の暮らしをすることを支援する事業

団体名: **特定非営利活動法人ココCOLORねっと**

事業名: 市民助け合いネット事業

助成金額: 2,727 千円 事業年度: 平成 26 年度

団体概要

住所: 〒272-0143
千葉県市川市相之川 3-2-13

連絡先: -047-397-3333

HP: <http://koko-color.net/>

事業背景

平成 28 年度の介護保険制度改正により、地域の住民同士の助け合いのニーズはますます高まることが見込まれており、支え合いの仕組み作りは喫緊の課題となっています。近くに頼れる人がいない一人暮らしの高齢者や子育て家庭は、現行の介護保険や行政のサービス等でも対応できない家事や外出等の困りごとを日常的に抱えています。

当団体が活動している地域においても、気軽に依頼できる支援先が分からず不便や不安を抱えながら暮らす人が多く見受けられていました。

事業概要

助成事業では、園芸療法、健康体操、料理等の介護予防講座を開催しました。講座では、介護予防とともに、事業の普及や助け合い活動の担い手となる元気なシニアの会員獲得も企図し、積極的に取り組んだ広報活動により会員は 120 名程度増加しました。

支援内容や支援を希望する会員と支援員との関係性等を総合的に考慮する等、自由度の高いコーディネートを実践した結果、助成年度のお手伝い時間は合計 4,000 時間を超えました。

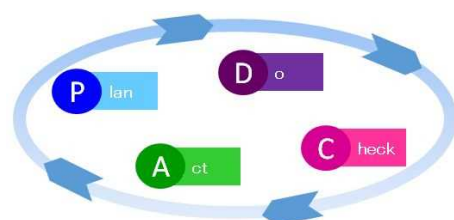
会員同士のつながりも深まり、事業の自立化へ向かっています。



ここに注目！

生活支援を希望して会員となっている住民であっても身体の状態や経験等により、できることや得意なことで支援者側として活動に関わることができるのが当事業の大きな特長です。

日常的に、連携団体とともに PDCA サイクルによる振り返りを実施してきたことにより、組織のガバナンス等も自然と強化され、行政からの意見聴取等にも対応可能な体制が整っています。助成事業でのそうした取り組みにより、行政からの委託事業にもつながりました。



キーワード: **ひとり親家庭** **貧困・格差** **人材育成** 活動地域: 長崎県

テーマ: 貧困・格差対策等の社会的支援(福祉的支援)を行う事業

団体名: **一般社団法人長崎市ひとり親家庭福祉会**

事業名: ひとり親家庭就労支援相談員養成事業

助成金額: 2,873 千円

事業年度: 平成 25 年度

団体概要

住所: 〒850-0054

長崎県長崎市中町 1-33
長崎市社会福祉会館 3 階

連絡先: 095-828-1470

info@nagasaki-boshikai.jp

HP: <http://www.nagasaki-boshikai.jp>

事業背景

ひとり親家庭では、働きながら子育てや家事などを一人で担うことになり、社会生活や日常の子育てなど様々な場面で困難に直面しています。生活面や経済面で多くの悩みや不安、葛藤を抱え、より安定した仕事に就いて経済的に自立することが必要です。

行政による支援制度を利用すれば解決するケースでも、どこに相談に行けばいいのかわからない、仕事が忙しく相談窓口に行く時間がとれないといった声も多く、支援が必要なひとり親を支援につなげていくことが求められています。

事業概要

助成事業では、支援を必要としている人を的確に支援制度につなげていくために、コーディネーター研修事業を行いました。

また、研修受講者が継続して相談支援に携われるようなフォロー体制やスキルアップ研修を通じて複雑な相談にも対応していけるようバックアップに努めた結果、養成研修を修了した人を中心に、多くの方がひとり親家庭への支援に携わっています。

また、ひとり親家庭支援に関する情報が集約されたハンドブックを作成したことで、相談窓口になかなか行くことができなかったひとり親家庭へ役

立つ情報を届けることができた他、地域の相談員がハンドブックを使うことで、より詳細な情報を提供できるようになりました。

当団体は、平成 25 年度助成事業を通じ、社会のニーズの変化を的確に捉えることができ、組織のミッションについて改めて団体内で考えるきっかけとなりました。その後、平成 26 年 4 月には団体名を“母子寡婦”から“ひとり親”に変更し、ひとり親家庭を幅広く支援できるよう取り組んでいます。

また、当事業の関係者、養成研修終了者の中から、理事やスタッフとして当団体の運営に携わる人が生まれるなど人材確保・育成につながりました。新規事業の立ち上げに向けて、事業計画に対する具体化やリスク管理など、スタッフ会議や理事会の議論も活発になり、今後の事業展開が期待されます。

ここに注目！

支援が必要であっても支援が行き届いていないひとり親家庭を対象に、必要な情報をわかりやすい形で届けられるハンドブックを作りました。

助成金を活用し、団体内でいつまでに何を実現させるか明確な計画を立てながら事業の進捗管理に努めた経験が組織基盤の強化にもつながっています。